

教員や学生が指導し実験など

崇城大学
探究プログラム
全国から高校生が参加

熊本市の崇城大学（小野長門学長）では、6月15日、高校生のための探究活動プログラム『ディスカバ！in崇城大学ーチヤレンジDAYー』を開催した。遠くは埼玉県から九州内外の合計23人の



西園教授(右)の指導の下、実験する高校生

高校生が参加した。

『ディスカバ！』は、学校の中だけでは体験できない探究や未来との出会い、新しい自分を見つける学びの場を提供するキャリア支援プログラムである。同大学では2023年度から導入され、探究活動や成果発表会などを含め今回が7回目の実施となり、これまでに累計約200人が参加している。

当日は、体験型のプログラムとして、『食の探究』『がんの探究』『薬の探究』の3つのテーマを設定。参加者たちは同大学講師と大学生のサポートのもと、ディスカッションや研究室での実験を行った。参加者からは「オープンキャンパスでは体験できない形で大学の研

究内容に触れることができるとてもいい経験だった」今回の活動内容を通して新たな目標ができたのでそれに向かって探究を深めていきたい「同じグループの人達とテーマについて意見交換ができてよかった」といった声があがった。最後に参加者には修了証が授与された。

同大学では、様々な事象に知的好奇心を持って観察し、多角的・多面的、複合的な視点から問題発見・解決に生かす力をつけ、未来の「予測困難な社会」を生き抜くための人材育成に取り組んでいる。

2022年より、興味を抱いた課題を大学進学後までシームレスに探究活動として継続すること

で、ハイレベルな理系人材育成につながることを趣旨とした高大連携事業をスタートした。具体的には、高校生の研究活動の支援と探究活動や課題研究を活用した入試を実施している。過去2年間『ディスカバ！』に継続して参加し、大学教員のサポートを受けながら探究活動を続け、同大学の入試制度「探究活動プログラム選抜」に合格して入学した大学生との交流も行われた。

今後、参加者は8月2日に開催される「探究成果の発表会」に向けて、自分たちの探究活動を深めていく予定である。